



ひよこ組

【12月の保育のねらい】

- ・気温や体調に留意しながら、戸外にでて歩くことや自然物を探すことを楽しむ。
- ・保育者のまねをしたり、ことばをかけてもらいながら身のまわりのことをする。

<指差しが盛んです>

暑い夏が終わりテラスに出るようになった頃。飛んでいく飛行機を見つけた保育士が「ほらほら、飛行機だよ」と指をさして伝えるとなんとなく見ていました。でも今では、飛行機を見つけると指をさして「あっあ」と教えてくれるようになりました。それだけではなく、「ゴォー」という音が聞こえてくると、キョロキョロしながら空を見つめて飛行機を探します。発見すると「あっあ」と指差しをしながら伝えてくるので「ホントだ、飛行機いたね〜」と声をかけると(でしょ〜見つけたんだよ。)とばかりにニコリです。

秋になりさんばに出かけるようになりました。葉っぱに車、ちょうちんに犬など見つけることができ楽しくて仕方ありません。「そろそろさんばに行こうかな。」と言うと、「あっあ」と廊下の方を指差しして(あっちに行くんだよね。早く行こうよ)と訴えているようです。「じゃ おさんば行こうね」と言う(帽子もかぶるよね)とばかりに頭を指差しです。

子どもの指差しに共感していくことで、子どもが積極的に大人に対してはたらきかけるようになります。伝えたい事柄や要求を伝え合ってコミュニケーションが成立していきます。

ことばの出でくる前の沢山の指差しをしっかりと受け止め、共感しながら楽しんでいきたいと思ひます。



ちゅうりっぷ組

【12月の保育のねらい】

- ・絵本や紙芝居の再現遊びやお店屋さんごっこなどを繰り返し楽しむ。
- ・自分の思いや気づいたことを、自分なりの言葉で友だちや保育者に伝える。

<うんとこしょ どっこいしょ>

薬師公園に遊びに行った際、浮き根を見つけると「うんとこしょ どっこいしょ」と引っ張るこどもの姿がありました。抜けなことがわかると「だれか一緒に引っ張って」と言葉をかけます。それが聞こえた子たちは「待っていました」とばかりに「うさぎの〇〇です」と参加をし「うんとこしょ どっこいしょ」と引っ張りますが、やっぱり抜けず…「ねこの〇〇ちゃんもきてください」と呼んだり、時には「大きくなまのまいさんの出番だよ!」と保育者も参加したりと、みんなで楽しんでやっています。

11月になり、成長を祝う会も近づき、「今度、運動会の時みたい、お父さんやお母さんに見てもらおう会があるんだけど、どんなことをしたい?どんなことをみてもらいたい?」とこどもたちにどのような内容をやりたいか聞いてみると…やっぱり「おきなかぶがやりたい!」ということで、ちゅうりっぷ組は『おきなかぶ』をやることに決めました。「お母さん、お父さんが見に来るの嬉しいな」と言っている子もいれば「恥ずかしいな」と言っている子もいます。ぜひ、当日を楽しみに!こどもたちの成長した姿を見てもらえたらと思ひます。



りす組

【12月の保育のねらい】

- ・食具を使って、自分から進んで食べる。
- ・ひとりひとりの思いや主張を受け止めてもらい、「じぶんでできた」という喜びをたくさん味わう。

<ちっくんできた!>

指先が器用に動くようになり、スプーンを上手に持って食べることができるようになってきました。最近「自分で食べたいの!」と最後まで一人で食べようとする姿が出てきています。すくにくい食材(麺類やご飯等)は保育者が「お手伝いしてもいい?」と声を掛けて、そっと援助するようにしています。スプーンの使い方が上手になってきたので、今度はフォークも使ってみようということになりました。

使い始めた最初の頃は、フォークを持つことが嬉しくて、汁物やご飯、おかず等全部をフォークで食べようとしていました。フォークの間から汁がこぼれると、「なんでだろう」と不思議そうな顔。「フォークは、麺を食べたり、お魚をちっくんして(刺して)食べると良いんだよ」と保育者が実際にやって見せながら使い方を伝えると、じーっと真剣な顔で様子を見ていたこどもたち。フォークを何度か使っていくうちに、少しずつ慣れてきて、「ちっくんできた!」と嬉しそうな声が聞こえてくるようになってきました。

“自分で食べたい”“自分でやってみたい”という気持ちが高まっているりす組の子たちです。一人ひとりの思いに寄り添い、自分で食べられたことを褒めて自信に繋げていきたいです。また、スプーンやフォークの使い方についても、一緒に持ちながら繰り返し丁寧に伝えていけたらと思ひます。



うさぎ組

【12月の保育のねらい】

- ・戸外で十分に身体を動かして遊び、保育者や友だちとの関わり合いを楽しむ。
- ・見立て遊び、つもり遊びをとおして、言葉のやり取りをしながらイメージを広げて楽しむ。

<リズム運動>

うさぎ組になってから、ホールでリズム運動を行っています。運動会での「いもむし」や「ちょうちん」も毎日繰り返し楽しんでいました。リズム運動は、正しい姿勢、歩行、脳の働きを育てるための土台づくりを目的にしています。こどもたちはピアノ伴奏に合わせて走ったり、跳んだり、転がったりします。自分の思うことを自由に表現できる(動ける)ようになれば、意欲もわいてきます。リズム運動をホールで始めた頃は、ピアノの音を聞いて何となくの動作で体を動かすことが主でしたが、最近「この曲はこう動く!」と、こどもたちなりに意識して張り切っている姿があります。特にイメージが持ちやすい動物や虫などは、とても楽しそうです。初めての曲や、慣れない体の動かし方をするものは「やんない…」「見てる…」と言う子もいます。“見る参加”も受け止めていきたいと思ひます。まだまだ動きがかわいさっぱいのうさぎ組ですが、「キュッと止まる!」(汽車)や「片足で立つ」(かかし)なども、出来る友だちの様子を見て「みて〜!できたよ〜!」と嬉しそうに教えてくれたり、友だち同士で顔を見合わせて喜んでる姿もふえています。これからも楽しく全身を動かし、体づくりをしていきたいと思ひます。



さくら組

【12月の保育のねらい】

- ・見通しを持って片付けや着替えなど身の回りのことを自ら行う。
- ・話し合いながら成長を祝う会を作っていく。

<だんだん楽しくなってきたバナナ氷鬼>

風が冷たく肌寒くなってきましたが、大好きなバナナ氷鬼をして走っています。

鬼ごっこをする時は、「鬼が3人だと捕まらなかったから4人はどう?」などとみんなで相談し、鬼の人数を決めます。鬼になりたい子たちが鬼決めをする人を決めます。鬼決めをする人はジャンケン。勝った人が鬼決めをします。

みんなを確認するのは、守り神(鬼がタッチした人を助けられないように守る事)が『あり』か『なし』かを決めてから始めます。最近では走るスピードも速くなり、周りを見ながら走れるようになってきたので、ぶつかりそうになったり捕まりそうになるとかわして走ることができるようになってきたり、また方向を変えたりと…大きく走り方が変わってきました。鬼の中には近くで助けに来た子を待ちぶせをしたり、助ける子は鬼が見ていない隙をこっそり狙ったり、みんないろいろ考えながら遊ぶようになってきました。

時々助けてくれたのか、鬼にタッチされたのか分からなくなってしまうことがある友だちには「タッチしたよ。バナナにならないよ」「助けたから逃げていいんだよ」と優しく教える余裕も出てきました。

これから増々寒くなりますが、いろいろな体をたくさん動かして遊んでいきたいと思ひます。



もみじ組

【12月の保育のねらい】

- ・成長を祝う会へのイメージをもち、やりたいことを出し合いながら、友だちと協力してひとつのことに取り組む。
- ・1日の生活に見通しをもって行動する。

<生活習慣の見直し>

・就学に向けて、運動会後からお昼寝をなくしました。4月から「もみじぐみってお昼寝しなくなるんでしょ」とワクワクしていたこどもたちでしたので、運動会後からお昼寝しなくなることを伝えると「これからは本当のもみじぐみの始まりだね」なんて言って喜んでいました。さらに、就学時健診で小学校へ行き、「小学校の先生とお話したよ!ドキドキした」「大きな声で名前を言えた」と目をキラキラさせて教えてくれました。学校へ行くことや大きくなったことを実感している様子がうかがえます。ぜひ、生活面を見直す機会にしていましょ。

- 寝不足は、イライラしたり、頭がボーっとしたりするので、たっぷり睡眠をとるために『早寝・早起きのリズム作り』をしましょう。
- 服の前後が間違っていないか、下着が出ていないか、髪の毛がぼさぼさになっていないか、口のまわりが汚れていないか、など『身だしなみを整えられる』ようにしましょう。
- 自分の荷物は自分で持つ、忘れ物がないか確認する、など『自分のことは自分でしようとする』を習慣にしていましょ。

急に「ひとりやりなさい」と言われても、すぐには出来ないものです。一緒に行き、やり方を教えていながら、自分でできる部分を増やしていけるようにしましょ。気をつけたいのは、「〜やったの?」「〜して」と先に指示ばかりせず、自分で考えて動くのを「待ってあげること」です。私たちも気をつけたいところ。こどもも「小学生になるんだからちゃんと出来ないよ…」と不安が大きくなってしまふことがあるので、「もうすぐ小学生になるんだから」とはあまり言わず、小学校へ行くことが楽しみ!憧れ!となるよう、今の時間を一緒に楽しく過ごせるといいですね。

